

「地域ぐるみの学校安全」～地域のネットワークを生かした安心・安全な学校づくり～

さいたま市立道祖土小学校
校長 井原 政 幸
安全主任 小 崎 景 綱

1 はじめに

本校は、さいたま市南東部寄りの浦和区と緑区の境に位置し、農家の畑や屋敷森が残る住宅地に囲まれた全校児童771人、24学級の大規模校である。

学区は、台地と低地が入り組んだ地形で、昔ながらの細く曲がりくねった道路が多い。また、四方を国道463や産業道路などに囲まれ、元浦和レッズの本拠地として知られる駒場スタジアムや相撲場、市民体育館や青少年宇宙科学館などのスポーツ・文教施設も多く、交通量や人の出入りが多いことから、交通事故や不審者などの心配が絶えない。

このような環境の中、本校では開校以来の校訓「明るく 仲よく たくましく」の下、目指す学校像の一つに「安心で安全な学校」を掲げ、道祖土小学校スクールサポートネットワークを組織して、地域ぐるみの学校安全に取り組んでいる。

2 実践の概要

(1) 組織的・計画的な学校安全の推進

①組織体制づくり

- ・校務分掌組織に安全教育部を設置し、各学年及び本部でメンバーを構成している。
- ・道祖土小学校スクールサポートネットワークを組織し、保護者・地域・専門機関との連携を図っている。

<道祖土小学校スクールサポートネットワーク参加団体>

自治会（16団体）、青少年育成道祖土地区会、道祖土小学校PTA、民生委員・児童委員（26人）、道祖土小学校防犯ボランティア（40人）、学校関係者評価委員・学校評議員（7人）、校庭等開放事業運営委員会（10団体）、さいどっ子チャレンジスクール実行委員会（5人）、道祖土小学校教職員、その他警察署等関係機関

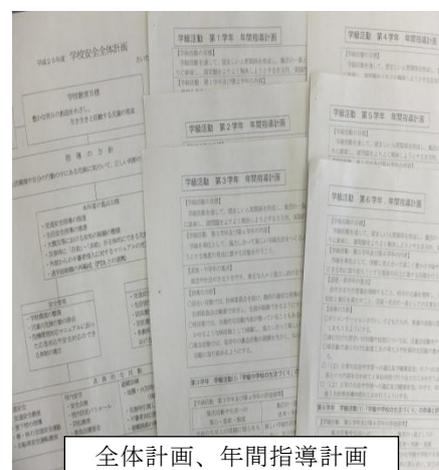
- ・児童会活動の学校安全の取組への参画を図っている。

②全体計画や年間指導計画等の作成・実践・見直し・改善

- ・「学校安全全体計画」を作成し、実践を通して不断の見直しと改善を行っている。年度末に最終まとめを行い次年度の全体計画を作成することとしている。
- ・安全教育部の年間活動計画を作成し、計画的・組織的な活動を展開している。
- ・学級活動（1）と（2）に安全に係る内容を位置付けた年間指導計画を作成し、実施・評価・見直しを行っている。

(2) 関係機関との連携による安全教育の充実

①学級活動における安全教育



<年間指導時数>	1年	2年	3年	4年	5年	6年
交通安全	4	3	3	2	3	3
防災	3	4	2	2	2	2
生活安全・防犯	6	6	4	5	5	4

②学校行事での安全教育

③各教科（社会科、理科、生活科、家庭科等）における安全教育

<交通安全>

- ・交通安全教室（年各1回：第1・5学年）・・・市役所交通防犯課の指導により、安全な歩行や自転車の乗り方などを発達段階に応じて学習している。
- ・自転車安全運転教室（年1回：第3学年）・・・浦和東警察署と安全協会の指導により、自転車安全運転の講習を受け、合格者に免許を発行している。
- ・一斉下校（年2回：全校）・・・通学班ごとに担当教員から交通安全指導を受け、担当教員と共に下校しながら危険個所の確認と安全な登下校の仕方を学習している。
- ・児童代表委員による毎月の「交通安全あいさつ運動」や放送委員による毎日の交通安全の呼びかけ、每学期終業式での全体および各学級での交通安全指導、交通安全週間の呼びかけ等による啓発を行っている。



<防災>

- ・避難訓練（年3回：全校）・・・さいたま市緑消防署の指導により、地震と火災発生を想定し、緊急地震速報を使っての全校児童避難訓練、教職員の災害時対応訓練を2回実施し、教員による消火の実演等も行っている。本年度は、より実際的な訓練として緊急地震速報を使っての予告なしの避難訓練を1回実施した。
- ・災害体験（年各1回：第3・4学年）・・・さいたま市緑消防署の指導により、起震車と煙の体験を実施している。
- ・引き渡し訓練（年1回：全校）・・・震度5弱の地震発生を想定し、避難して児童を保護者に引き渡すまでの訓練を行っている。
- ・地域自治会や行政と連携して、年1回、本校を避難場所とした災害時の運営訓練を実施している。



<防犯>

- ・不審者侵入時避難訓練（年1回：全校）・・・不審者の侵入を想定しての児童避難訓練、教職員の不審者対応マニュアルに基づく模擬訓練を行っている。

- ・防犯教室（年各1回：第2・4・6学年）・・・浦和東警察署の指導により、不審者への対応などを学習している。
- ・携帯電話教室（年1回：6年生）・・・携帯電話機器会社職員の指導により、携帯電話やインターネットの犯罪被害の状況や防止対策などを学習している。



携帯電話安全教室：6年

(3) 地域・保護者・関係機関等との連携による安全管理の徹底

- ①安全点検 点検方法の校内規定に基づき、点検表を使って全教職員で毎月10日の定期点検を実施している。また、台風や地震等の臨時点検を実施している。さらに、その都度気付いた危険箇所は直ぐ報告し安全措置を行い校内修理と業者修理で対応している。
- ②登下校指導 交通安全と防犯を主な目的として、教職員5～6名、PTA2名、交通指導員2名、交通安全ボランティア複数名、地域自治会複数名で毎日の登下校時に校門や学校周辺での立哨・巡回指導を行っている。各通学班の世話人や保護者も、毎朝集合場所での見送りを行い、毎週月・火・木を校長、水を教頭、金を教務主任が自転車で学区内の通学路巡回を行い、協力者への挨拶や情報交換など連絡・連携を図りながら通学班の状況把握と指導に当たっている。また、地域の方も各所で自発的に登下校を見守ってくださっている。



登下校指導

- ③校内・地域周辺の巡回 管理職や教職員・地域コーディネーター・警備員・用務員や保護者（2名ずつ交代制）が、毎日の校内巡回・校門警備に当たっている。また、地域自治会も校門警備や地域巡回を行っている。夏休みには、育成会と小中学校の教員・PTA合同の夏休み巡回補導を行っている。



地域巡回

- ④通学路点検 教職員による一斉下校（年2回）、家庭訪問時（年7日間）、地域巡回時（随時）の点検、保護者による登下校時（随時）の点検、通学班世話人会議による点検（年1回）を実施し、児童への安全指導や通学路の道路標示等の環境整備に役立てるとともに、さいたま市緑区防犯推進実行委員会へ報告して安全マップを作成している。



安全マップ

- ⑤取り締まりとパトロール 浦和東警察署に依頼して違反車両の取り締まりや不審者対策としてのパトロールを繰り返し不定期に実施していただいている。

- ⑥環境整備 安全に係る様々な環境整備を進めている。

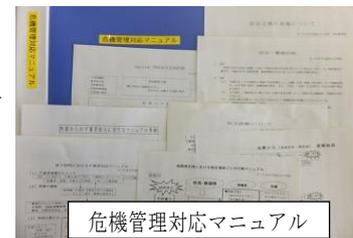
- ・地域の協力による「子ども避難所110番の家」（76件）の配置
- ・保護者や地域の協力による自転車等への「防犯パトロール」の表示（多数）
- ・安心メールの配信システムによる天候等登下校時の急な変更や緊急時の円滑な連絡
- ・学校だよりやWeb ページ「道祖土NOW」等を活用した積極的な情報発信
- ・校舎内の環境整備（啓発のための校内の表示やポスターの掲示、各教室廊下等に防犯ブザー・防犯ベスト・刺す又・ハンドマイクの設置、転落防止・防火シャッター等の注意表示、安全クッションの取付、AEDや担架の設置等）



(4) 危機管理

① 危機管理対応マニュアルの作成と活用

- ・災害や事故、怪我やアナフィラキシーショックなど、各種対応マニュアルを作成し、ファイルにして全教職員に配付し、活用できるようにしている。
- ・心肺蘇生法、刺す又等を使った侵入者対応、エピペンの使用等の教職員研修を実施し、実際に対応できる能力を備えるように努めている。



※食物アレルギーについては、年度当初（転入生は随時）に対象児童を調査し、管理職・養護教諭・栄養士・担任等同席の下、すべての保護者と面談を行い注意事項や対応を確認している。また、学校医と連携し学校保健委員会で食物アレルギーの講習を行っている。

(5) 地域のネットワークを深める取組

① 各種会議の開催

道祖土小学校スクールサポートネットワーク会議（年1回）、道祖土小学校避難場所運営委員会会議（年5回）、青少年育成会道祖土地区会会議（年6回）、民生委員主任児童委員会会議（年1回）、学校評議員評価委員会（年2回）等、各機関等との会議を重ね、情報の共有化と連携を深めている。



② 地域との交流

- ・お世話になっている方々を学校に招待して、感謝の気持ちを表し、地域の人との直接的な交流を深めている。
- ・学校だより等を地域自治会に直接届けての挨拶や情報交換、地域の祭りや集会等に積極的に参加しての交流を深め地域ネットワークを広げている。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・全体計画や指導計画の不断の見直しで、安全指導や安全管理が徹底している。
- ・地域や保護者の意識が高まり、地域ぐるみで学校の安全を守る体制ができている。
- ・学校と地域との交流が活性化し、情報の共有化と協力体制が一層深まっている。

(2) 課題

- ・自ら判断し行動できる子を育てるために、より実践的な避難訓練を一層工夫する。
- ・防災センターでの体験学習や避難所運営訓練への児童参加など安全教育の場を広げる。
- ・道祖土小学校スクールサポートネットワークの一層の活用を図る。